

復興（Reconstruction）

2019年12月に急性呼吸器疾患の集団発生の確認から、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は瞬間に全世界へと拡大し、2月にはわが国でも感染者が報告され他人事ではなくなりました。3月になると集団感染が報告され、感染者は全国に拡大しました。WHOは3月11日にパンデミックを宣言し、いまだ世界レベルでCOVID-19との戦いとコントロールへの挑戦が続いています。

本学では、この時期、一般入試前日程および後日程、卒業式、入学式という重要な大学の行事が続きます。中止にすべきか、実施するならどのようにして皆を感染から守り、かつ教育の質を確保して継続できるのか、試行錯誤でありましたが、皆で真剣に考え、決定してきました。新年度に入り授業を開始しましたが、感染拡大により全国に緊急事態宣言が出されることになり、4月23日から5月6日まで休校としました。その後5月25日をもってすべての都道府県で緊急事態宣言は解除され、本学でも新しい生活様式を踏まえた教育研究が再開しました。

この間、学生、教職員の皆さんには、一丸となって力を尽くし、心を尽くして、感染拡大防止に細心の注意を払いながら対応してくれたこと、本当に感謝します。

学生諸君は、情報が行き届かない、反対に情報過多の自粛生活の中で、多くの不安や不安定さを感じていたことと思いますが、大学の方針に真摯に対応してくれたことに感謝します。学生自らも大学の運営に対して様々声を発してくれたこと、学生諸君のこの件へ向き合う姿が胸に染みしました。戸惑いとともに、この経験は宝ものになります。大事にしてほしいと願います。

教職員においては、遠隔授業の環境が十分に整備されていない中で、できるところから速やかに対応してくれました。臨地実習教育は本学にとって大事な教授方法ですが、次々と臨地実習が実施できなくなりました。それでも代替法を尽くし、教育の質の担保に努力してくれました。速やかにかつプラス思考の対応にこのうえなく励まされ、前を向いて進むことができました。

変転する時を過ごしてきましたが、多少の落ち着きを取り戻した今、これからを注意深く考え備えることが必要であると思います。

このメッセージのタイトルである「復興（Reconstruction）」は、元に戻すだけでなく、弱かった部分を補強しさらに強固に堅牢にする、あるいは勢いを取り戻すという意味があります。新型コロナウイルス感染拡大という未曾有の経験をした私たちがめざすのは、「復興（Reconstruction）」であり、さらに強固な大学にしていこうことです。新型コロナウイルスはまだまだ解明されないことが多く、新たな知見も続々とできています。これからまだまだ変化はおこるでしょう。変化に「しなやかに応えること」、これがめざす強さです。新型コロナウイルス感染症

（COVID-19）と、どのようにつきあうべきかについてこの先も模索していかなければなりません。「老成持重（ろうせいじちゆう）」という言葉があることを知りました。その意味は「十分に経験を積んで物事に長じ、しかも慎重なこと。」とあります。私たちは貴重な経験をしたとはいえ、その経験はほんのわずかかもしれません。本学のウィークポイントも見えてきました。経験を大事に積み重ねかつ経験に偏ることなく、これからも慎重に取り組んでいかなければなりません。

復興の歩みの第一は、ウィークポイントを補強し強化することですが、本学の役割である教育、研究、社会貢献の各分野での役割を拡大していくことにも取り組んでまいります。ともにこの時期を乗り越えてきたことを糧に、私たちがしなやかに応える力を身につけましょう。

2020年6月

危機管理対策本部・理事長 上泉和子